



辻川だより

第8号 [2008 冬号] 平成20年12月6日発行

発行 辻川区 [辻川公民館]
〒679-2204 福崎町西田原 1227
TEL 0790-22-5763
ホームページ <http://www10.plala.or.jp/tujukawa/>

11日 13:30 しで踊る宵宮



12日 17:00 新しい幟と吉田と



11日 11:00 西田中・井ノ口と



12日 16:00 本宮の木方会議

振り返って 区長 釜坂道弘
時の過ぎるのは早いもので、今年も余すところ一ヶ月足らずになりました。
一月には総会が開催され、今年の事業計画を発表しました。一月から始まった新ゴミ分別も記憶に新しいところです。四月には回を重ねて23回目の運動会が区民参加で行われたこともうれしいことです。七月から八月にかけては辻川界隈展を盛大に開催する事ができました。特に『民俗学の夕べ』は辻川しか出来ない「辻川らしい」行事の一つで、我が地区の氏神様である鈴の森神社で行われることに意義があります。今後是非続けていきたいものです。
まわし着用を認めた今年の秋祭りはここ数年になく頑張りを感じました。まわしについてはいろいろな意見があるとは思いますが、何よりも区民の気持が一つになることが重要です。今後も辻川の運営において心を一つに取り組んでいくことの大切さを感じた一年でした。

- 事業報告**
- ① 9月6日(土) 隣保長・各種団体役員会議
 - ② 9月11日(木) 秋祭の実行委員会構成・運営予定等説明(再度、9月28日「打合せ会議実施」)

協議委員会

- 9月11月の定例協議委員会での報告や検討した内容を一部紹介します。
- ① 秋祭りの組織・運営
- ② 辻川山保全協定継続
- ③ 町内会費等徴収のための在籍確認及び公平感のある世帯の定義検討
- ④ 公民館下水道接続工事業者選定は振り出しに戻す。
- ⑤ 下水道本復旧舗装工事進捗状況 等

近況の予定
1月18日(日) 13:30~
平成21年度総会

老人会研修旅行記 (木村会長)
『一日目は注目度NO1の世界遺産石見銀山へ。途中トイシ休憩で少々時間をとります。一番

敬老の日の催事

◆9月28日(日)
今年は72歳以上の区内対象者138名中40名の参加者が西脇健康ランドへ。芝居、舞踏・歌謡ショーをゆっくりゆっくたのしみだ。来年は時期を早める予定。



「風船」の堰を切ると一気に市川へ

の目的地*龍源寺間歩(まひ)には入れず銀山公園 された長さ600mの大坑道。唯一内部が公開されている。
二日目は出雲大社参拝に島根ワイナリー、宍道湖を目前にしての昼食ではしじみ汁に舌鼓を打つ。食後はバスで松江城のお堀めぐり：よく考えると大社参拝からのこのゆったり感は何なのか。「ミーン」落ちていない街のせいかな、車がゆっくり走っているせいなのか。帰路は境港の魚市場に寄り、大山スカイライン、蒜山高原経由で辻川へ。参加者26名、友好を深め、話に花が咲いた旅行となりました。『福永菊一さん(明治39年生まれ)が福崎町の男性最高齢者になりました。百二歳おめでとー!』さいます。『広報ふくさきより』

秋祭りの

◆10月11日(土) 秋祭りの
◆12日(日) 秋祭りの
まわしづくりの最大イベント。「まわし」公認の秋祭りの初年。心配された雨も宵宮の早朝に上がり、絶好の祭日和の二日間になった。28日の肩合せ、5日の台車新調安全祈願・青年団や木方を中心、祭りを楽しむ心が一つになり、本宮宮入のみならず、福寿園下から旧道を屋台倉まで練り通す近年にない練

③ 2隣保から「平野病院から福寿園への街路に防犯灯を」↓今の街路灯を防犯灯として活用できるように、間引いての点灯を町へ要望する。等

◆9月23日(祝)
道普請・雲津川・辻川山清掃
秋祭りに向けて辻川がきれいになった。ちなみに協議委員は雲津川、消防OBは鈴の森神社周辺の下刈りも行い、前日の老人会による境内の清掃と合わせて宵宮の準備が整った。



11日 13:00 奉納相撲



11日 16:00 緑の下の力持ち



12日 14:30 宮入で二度差し

りを見せた。見事として感謝。

協議委員としての任期を終えて

内藤政義

皆さんとごんな表現でお付き合っているだろうとかを常に念頭に置き、最善を尽くすよう頑張りました。が、未だ思いを巡らすこと多々あります。

鈴木雅文

会計として、今年は幸いにして大きな災害もなかったが、鈴の森神社の建物や玉垣には老朽化も重なり、修理の必要な箇所が増えている。区として『横立』を考えた。

新見良一

一つの事業を起して完結する迄の期間の長さ、会議・回覧等の書類「ロビー」の多さ……。でも、月一回の定例協議委員会は面白いです。もう女性の協議委員が登場してもいい時代。改選に期す。

小谷吉多男

許されてはならないことを一つ…いわゆる「三川町高住宅跡地返還問題」である。この土地は昭和34年、当時の辻川役員英断により町営住宅用地として町に寄付されたものである。これが現在「用途廃止」されているにもかかわらず、三川区の返還要求に心づくこととはできないとの町行政の回答は到底納得できない。一般的な金品や物品ではなく、土地の用途の公共性に鑑みて

寄付されたものである。その用を終えたならば、これを元の地権者に返すことが道理というものだ。ある区民から「このことを折に触れて言い続けたいと忘れ去られるだろう」と激励を頂いたが、私の無力に恥じ入るばかりである。いつの日か返還実現を願ってやまない。

日下博義

迷走の二年間でした。次のステージでは新パワーによる「区運営」に期待したい。非力であった事を踏まえ、至らなかつた点が多々あったと思いますが、ご容赦願いたい。

上延教泰

納涼大会、界隈展、民俗学の夕べ、敬老会が担当しました。多くの方に出演・出品を依頼し、来場のお客さんに少しでも楽しんでいただけたよう努力してきました。「文化」一筋に十年、今年で協議委員卒業、やれやれです。これからも、さらに盛り上げていただくと願っています。

堀一夫

区の運営がこんなに大変だとは思っていません。今までやってこられた。

釜坂好隆

何と日時の過ぎるのが早いか悪かったのか…自治運営の難しさ、自問自答の秋の空…お世話になりました。

田崎正和

は、編集後記に

た役員の方々の苦勞がよく分りました。区民の皆様一人一人の協力なしではできない仕事だと思いました。いろいろな行事に追われて十分な事が出来ずに終わって行く感じがします。これからも体育等を通じて連帯感を持てばと思います。

鈴木智久

★年頭の総会で協議委員選挙の規約が改正されています。

「協議委員は、満七十歳を超える者、または、在任5期(十年)を超える者は再選されない」となっています。ご注意ください。

昭和初期の三川界隈

第4回

『あの頃は一年を通じて楽しい事が多くありました。幸せな子供時代でした。元日は式があり、学校から帰ると皆で双六(すごろく)、カルタ取り、トランプ、百人一首など、負けると顔に墨をつけ興じました。二日は皆、家庭で書初めをします。始業式に学校へもって行き、よいのは展示されました。井ノ口の「えびすさん」は何時粉雪の舞つ舞い日でした。

神積寺の「鬼追い(追儺)」は広い境内に大勢の人が並んで待っています。けたたましい鐘を合図に女の神様である「山の神」がたいまつをかざして出てきます。皆の歓声、元気な若者達は鬼ごっこの如く追い、また逃げる。ひとしきり過ぎると、また鐘が鳴り、赤鬼、青鬼がたいまつを持ち、悠々と出てきます。皆が喜んで楽しい時を過ごしました。家路に着くときには、たいまつを燃え残りの木を魔よけとして大切に持ち帰りました。

「文殊さん」は知恵の佛様で皆お参りします。小遣いは何時も五銭でした。お祭りの出店を見るのは楽しく、鯛焼き、関東煮、生姜(しょうが)糖、古本雑誌、見世物小屋・・・私はこんにゃくのおでんが好きでした。家で母が作ってくれるのと味が違っていました。祖父へのお土産は何時も鯛焼きで着物の袂(たもと)に入れて持って帰りました。

田原村の熊野権現様には夏祭り、秋祭りがありました。秋祭りの十月十六日には三川の村で屋台を飾り、十七日は朝から太鼓の音がし、子供も晴れ着を着ます。振袖の着物を着る子供もあり、大人もよそ行きを着ます。洋服は少なかったと思います。家庭では小鯖(さば)の塩抜きをして、すし御飯を詰め、姿すしを作り、木箱に並べ、はら

んの葉で蓋(ふた)をして置きます。各々の村の屋台は後ろに役員さんが羽織袴で杖を持ってつき、拍子木の合図で少年たちは電線上げをしていました。皆それぞれ伊勢音頭を唄い、掛け声をかけ、重い屋台を大勢で心を一つにして、かついで通ります。

熊野権現様の境内は広く、それぞれの屋台のそばの木立の中でお弁当を食べます。我が家でも巻きすし、鯖鮓を作りました。境内では金銀のきれいな屋台がへるりと並んで壮観でした。皆、色遣いの手拭いを首に巻いていました。拝殿の正面で「エーエーヤ、ドッコイヤ」「ヨイヤサ、ヨイヤサ、エーヨイヤサ」で高く差し上げ五穀豊穣を祈ります。平素は閑散とした境内が人々、太鼓の音で最高潮に。神様の最良の日でした。『……続く……』

(原文を一部割愛、変更しました)

注1 十月十七日は神嘗祭(かんなめさい)の祝日。神嘗祭は天皇がその年の新穀を伊勢神宮で天照大神(あまてらすおおかみ)に奉納する祭儀。当時は神嘗祭後の福刈りが一般的でした。

これでやっと任期を終えました。少し残ってしまった『昭和初期の三川界隈』は後任に引き継ぎます。只々多謝。 [田崎]

編集後記

編集後記